

## 労苦継承事業の意義（戸高）

労苦継承の意義について、私見。

1、まず、ここで言う労苦は何を指すか。

- ・ 主に昭和の戦争によって齎された国民の労苦である。これは軍人、軍属に限らず、国民全員が、何らかの形で労苦を負っている、と考えるべきである。
- ・ その形には、戦死、戦傷、捕虜、抑留、被災、そして、帰国(引き上げ)さえも、苦難なくしては達成できなかった。
- ・ 更に、戦争が終っても、生活苦は長く国民を苦しめた。
- ・ 終戦直後は恩給も停止され、復活後も恩給年限に達しない軍人軍属も多数存在した。

2、これら、主に昭和の戦争に関わる時期において、国民の味わった労苦に関する資料を蒐集保存し、後世に正しく伝えることには、幾つかの意義があるが、

- ・ 意義の第一として、これら国民が蒙った苦難の責任の多くを負うべき政府が、このような歴史を再び繰り返さないという、政府の決意を明らかにすることである。これが、労苦継承事業の意義の一つであると考えられる。
- ・ 次いで、政府は、労苦を味わった国民について、その事実を正確に認識し、反省と慰謝の気持ちを深く持ち、かつこれを忘れてはいないという姿勢を、全ての国民に伝えるためにも、極めて重要な事業である。
- ・ この労苦に関わる資料は、日本の歴史の中にあって極めて重要な意味を持つものであり、後世の国民一般、まだ研究者によって、繰り返し調査研究されるべき対象であり、このような研究調査の継続が、平和の重さの再確認をさせることになる。
- ・ 特に、労苦、苦難というものは、極めて個人的な問題であり、一般論として集約しては、実体を失う類の事象である。このために、無数の個人体験を積み上げて、初めて全体像に達することが出来るものである。これは、抑留者〇万人が苦難を強いられました。という数字だけではその実態を伝えられないのであり、必ず背景には、個々の人生を持った全ての個人とその個々の記録、資料が無ければならないと考える。これは、民間事業で出来ることではない。

3、今日の平和国家としての社会制度の確立を初め、60有余年に渡り、対外武力紛争を経験しない大国の存在は、世界史上まれに見る事例と言える。これもまた悲惨を極めた先の大戦の大きな、かつ貴重な教訓から生まれたものである。

現在の安全で豊かな生活の背後に、どれほど苦しい過去があつたのか、またそれらの労苦を跳ね返して復興発展を遂げた国民の努力の跡をも知らなければ、現在の平和と発展の重さを知ることは出来ない。

このような意味から、歴史的資料の蓄積保存そして公開を伴う、労苦継承事業には大きな意義があり、是非とも実施しなければならない重要な事業でもある。